

# Q&A

## 多血性多発肝腫瘍の1例

### 【問 題】

症例：80歳代，男性。

主訴：特になし。

現病歴：202X年，腹部超音波検査で肝腫瘍の指摘あり。腹部ダイナミックCT検査で多発肝腫瘍あり，精査目的に紹介となった。

既往歴：十二指腸潰瘍，前立腺癌手術後。

生活歴：飲酒歴なし，喫煙歴なし。

血液検査所見：WBC 8300/ $\mu$ L，RBC 421万/ $\mu$ L，Hb 13.8g/dL，Plt 20.3万/ $\mu$ L，TP 8.3g/dL，Alb 4.2g/dL，AST 18U/L，ALT 14U/L，GGT

17U/L，ALP (JSCC) 264U/L，T-Bil 0.43mg/dL，D-Bil 0.19mg/dL，BUN 13.3mg/dL，Cr 0.82mg/dL，PT-INR 0.98，FBS 112mg/dL，HbA1c 6.2%，AFP 4.0ng/mL，PIVKA-II 18mAU/mL，T-PSA 0.04ng/mL，CEA 0.8ng/mL，CA19-9 12.8U/mL，HBs抗原陰性，HBc抗体陰性，HCV抗体陰性。

上下部内視鏡検査：特記所見なし。

画像所見（肝臓S5病変について）：腹部造影超音波，FDG-PET，肝動脈造影下CTを以下に示す（Figure 1）。

考えられる疾患は？

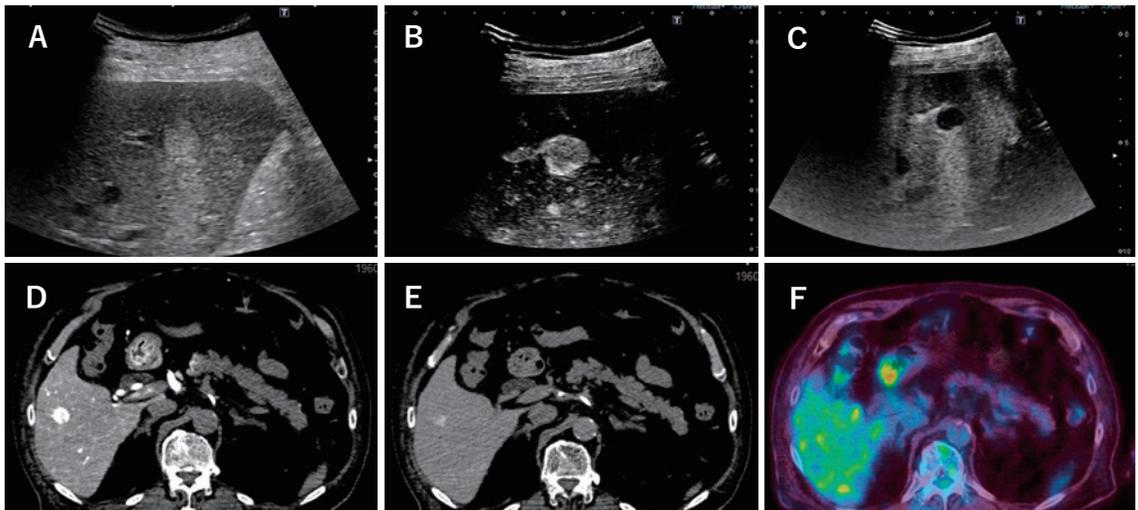


Figure 1. 上段：腹部超音波検査。(A) B-mode：肝S5に17mmの高エコー腫瘍を認める。(B) 造影超音波動脈優位相：早期から腫瘍濃染を認める。(C) 門脈優位相：欠損像を示すが，周囲にリング状濃染の持続あり。下段：肝動脈下造影CT。(D) 早期相：腫瘍濃染あり。(E) 平衡相：濃染が持続している。(F) FDG-PET/CT：FDG集積なし。